

『地域で育つ、大島っ子』

おおい町立大島小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	11回 (のべ) 11日

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	14人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	8人
登下校支援ボランティア	170人
その他 (読み聞かせボランティア)	33人

(3) 特色ある活動

テーマ 「ふるさと教育」

具体的活動内容

① 地引き網体験学習：地域との連携

ふるさと大島を愛する子どもを育てるために本校が行っている「ふるさと学習」の一つである。

10月8日、全校児童、教職員、保護者が地元の漁師さんと漁業協同組合等の協力を得て実施した。

まず、学校近くの浜で地引き網漁を体験した。その後獲れた魚で1・2年生は、魚拓をとった。3年生以上の児童と保護者、教職員が調理を行い昼食のおかずとして食べた。事前に魚のさばき方を地域の食倶楽部の方に教わっていたので、児童は慣れた手つきで魚さばきをしていた。また、高学年児童が伝統の地引き網漁についてインタビュー活動を行った。

体験が事前事後の学習とつながり、実りある体験学習となった。地域の方々と連携し、楽しくふるさとの良さを感じられる体験学習となった。



② 文化財愛護少年団活動：地域の文化財を知る

文化財愛護少年団の活動として、地域の文化財について学んだり、文化財の清掃活動等を行ったりしている。

今年は、学校の隣にある長楽寺を見学して説明を受けた。普段は観ることのできない国指定の重要文化財である阿弥陀如来像や多聞天立像などを見学することができ、地域の文化財を知る良い機会となった。

③ 地域行事への参加



8月には、大島の伝承文化を継承する会主催の「丸木舟・伝馬船体験」に、ほとんどの児童・教職員が参加した。丸木舟や伝馬船に乗った後、希望者は、丸木舟競漕にも出場した。地域の方の助けを得ながらも、「さすが大島っ子！」なかなかの権さばきを見せてくれた。児童は、父親や祖父母の手慣れた様子から、大島の伝統をしっかりと感じ取ってくれたことと思う。

10月には、大島祭りがあり、児童は週に2回地域や保護者の方々に太鼓の打ち方を教わり、当日は子ども太鼓を打ち、各地区を巡行した。軽快な太鼓の音色とかわいい児童のかけ声が、大島中に響き、地域に伝わる伝統の祭りを盛り上げることができた。



④ 地域の方から学ぶ



漁村婦人部の方々や大島じゃこ天倶楽部の方々に、へしこ作り（6年生）やじゃこ天作り（3年生）を教えていただいた。6年生が作ったへしこを取り入れた給食を味わったり、自分で作ってきたてのじゃこ天を試食したりと、ふるさとの味を堪能することができた。

また、体育大会前には大島踊りを保存会の方々に教わって、当日は、6年生が飛白の着物に赤い腰巻き、姉さんかぶりで大島踊りを踊った。大島ならではの光景であった。

成果と課題

① 成果

- ・総合的な学習の時間や生活科の授業とふるさと学習を連携させ、ふるさとの歴史や産業、文化に体験しながら触れ、理解することができた。
- ・地域・学校協議会委員の方々に、行事や学校公開日への参加を呼びかけ、児童の様子や学校の様子を観ていただくことができた。また、学校だよりやHPによって、児童の様子を知っていただくこともできた。

② 課題

- ・保護者や地域の方々の協力に感謝しつつ、体験活動の中に児童の主体的な動きがさらに加わり、より意欲的な学習となるように、指導の工夫や計画の再考が必要である。